

心のほけんだより



2023 年8月30日発行 No.6 天王寺川中学校 保健室

平和への^{ちか}誓い

みなさんにとって「平和」とは何ですか。

争いや戦争がないこと。差別をせず、^{ちが}違いを認め合うこと。

悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。

身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

耳をさくような^{ばくおん}爆音、肌が焼けるほどの熱。

皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に^う浮かぶ死体。

子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて。」と、^{さけ}叫び続ける母親。

たった一発の^{ばくだん}爆弾により、一瞬^{いっしゅん}にして広島^{は か い}のまちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか。」

仲間を失った私の^{そうそふ}曾祖父は、そう言って自分を責めました。

^{げんし ばくだん}原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを^{あた}与え続けたのです。

あれから78年が経ちました。今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。

「生き残ってくれてありがとう。」

命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。

自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。友だちのよいところを見つけること。

みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。

^{ひばくしゃ}被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。

身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

誰も平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。



これは、8月6日、広島「^{げんばく}原爆の日」の平和記念式典での小学生のスピーチです。

このスピーチに、「身近なところにも、たくさんの平和があります」という一文があります。

「身近な平和」を守るために、みなさんがとるべき行動についても述べられていますね。

^{ちが}違いを認め合う。相手の気持ちを考える。友達の良いところを見つける。

みなさんが、このことを忘れずに行動できたら、天王寺川中学校は、もっと笑顔あふれる、^{だれ}誰もが楽しいと思える平和で素敵な学校になります。